

日本防災士会新潟県支部と連携し 「胎内市主催の防災講演会」に出展

～パネル等により、損害保険の必要性とハザードマップの活用を啓発～

日本損害保険協会 関東支部 新潟損保会（会長：中村 知子・東京海上日動火災保険株式会社 新潟支店長）では、3月23日（日）胎内市産業文化会館で開催した「胎内市防災講演会」において、自然災害に備える損害保険のパネル・ポスターの展示や悪質修理業者に係る啓発チラシ、ハザードマップのリーフレットの提供を行いました。

講演会では、約200人が参加し、災害情報学、風水災特に豪雨災害に詳しい静岡大学防災総合センター牛山 素行教授が「洪水・土砂災害は起こりうるものが、起こりうるところで」と題して講演を行いました。講演の中で同教授は、「風雨で激しいときの屋外行動は、徒歩でも車でも危険。流れる水に近づかず、少しでも高いところに避難することが大事である。」「洪水・土砂災害犠牲者の多くは起こりうる場所で発生している。多くの雨がどの程度降るかを知ることは難しいが、気象庁のキキクルなどの情報をもとに、一人一人が自ら判断していくことが重要だ」と呼びかけました。

同会館のホワイエでは、当支部のパネル・ポスターの展示のほか、日本防災士会新潟県支部、にいがた防災ステーションのメンバーによるブース出展が行われ、多くの来場者で賑わいました。

新潟県胎内市では、2022年8月3日から4日にかけて、荒川中下流域で線状降水帯が停滞して大雨が降り、車が水没する被害〔廃車7台、修理15台〕が発生、また、近隣の市・村においても、同様の被害が多数発生し（村上市〔廃車1,171台、修理201台〕、岩船郡関川村〔廃車269台、修理39台〕）、災害救助法が適用されたこともあり、水災に対する市民の関心が高まっていました。

当支部では、引き続き関係機関等と連携して、風水災・地震に備える損害保険の理解促進と普及向上に向けて取組んでいきます。



【牛山教授の講演】



【パネル・ポスター展示】



【提供したチラシ】



【ホワイエの様子】